

## III—8 青森県の保健衛生政策の目標となる指標の問題点

○下山 克、中路重之  
(青森県総合健診センター)

青森県では、2013 年より青森県健康増進計画「健康あおり 21」を策定し、10 年後のめざす姿を定めて、健康づくりに取り組んでいる。令和元年には中間評価を行って指標の見直しを行った。しかし、行政の取り組みの成果を評価する際に、県民の実情を反映しているとは考え難い指標に基づいた議論がなされている場合がある。この主たる原因は、「健康あおり 21」中の指標が県民健康・栄養調査から抽出されるために、指標によっては標本数が著しく少なくなることである。青森県総合健診センターでは青森県全域の事業所健診の半数以上を担っているが、受診が義務づけられている定期検診はバイアスが少なく、標本数も多いため、より信頼がおける指標となり得ると考えられる。

「女性の喫煙率」は県民健康・栄養調査の成績では、平成 22 年から 28 年で 7.9% (33/419 人) から 11.5% (54/469 人) に増加、とくに 20 歳代では 11.4% (4/35 人) から 15.8% (6/38 人) と顕著な上昇があるとしている。しかし、青森県総合健診センターが実施した事業所の定期健診受診者では、全世代で 15.9% (4948/31091 人) から 12.8% (4362/34147 人) と有意に低下しており、20 代では 15.2% (811/5351 人) から 7.8% (426/5486 人) へ低下が顕著で、若い世代ほど喫煙率が低下している傾向にあった。

「20 歳代女性のやせ (BMI 18.5 未満) の割合」については、県民健康・栄養調査からの成績では平成 22 年度は 16.0%、28 年度は 4.2% に減少したとされているものの標本数がわずかに 25 人と 24 人に過ぎず、報告書内でも指標として問題ありとしている。一方、当センターが実施した事業所の定期健診受診者の成績は、平成 22 年が 18.8% (988/5257 人)、平成 28 年が 17.5% (932/5321 人) であり、減少傾向であることが確認できた。

これらのように、県民健康・栄養調査からでは、「健康あおり 21」で策定した目標の達成度合いを評価するための、県民の実情を反映する適切な指標を得ることができない場合がある。プロジェクトの目的に資する指標を得ることが明らかにできない場合は、県民健康・栄養調査にこだわらずに適切な指標を設定するべきであり、項目を策定する際により慎重であるべきと考える。